

# 障害者雇用の促進のための事業主支援

Business proprietor support for promotion of disabled person employment

勿田文記

HANEDA Fumiki

国立職業リハビリテーションセンター職業指導部職業指導課 上席障害者職業カウンセラー

(Vocational Rehabilitation Center for Persons with Disabilities Vocational counselor for disabled person)

KeyWords : Vocational Rehabilitation、 Business proprietor support、 Disabled person

## 1 はじめに

国立職業リハビリテーションセンター（以下職リハセンターという）では、職業指導部職業指導課を中心として、様々な事業主支援業務を行っている。一方で、最近ではコンプライアンス遵守を重要テーマとし、CSR（企業の社会的責任）を果たそうとする動きの中で、障害者雇用についても積極的に取り組む企業が現れ始めている。

また、職リハセンターでは、身体障害者、知的障害者だけでなく高次脳機能障害者や精神障害者、発達障害者等に多様な障害の受け入れを行っているが、雇用する側の企業に対し、精神障害や高次脳機能障害、発達障害、視覚障害等については、雇用労働者としての可能性をどのように伝えていくのかが大きなテーマとなっている。

## 2 目的

職リハセンターにおける事業主支援の現状を、事例を含めて整理し、障害者の職業リハビリテーションにおける職リハセンターの事業主支援の役割について検討する。

## 3 事業主支援業務の概要

職リハセンターでは、障害者雇用に関する様々な事業主相談、事業所への啓発等、面接・見学等のマネジメント、職場実習や在職者／休職者向け職業訓練等、多様な事業主支援を行っている。

職リハセンターや地域障害者職業センター等で行っている事業主支援を整理すると以下の3つに分類することができる。

○Off-JT： 障害特性や指導支援の方法についての知識研修、人的・物理的環境整備の一つとしての社員向け啓発・研修

○情報の把握・分析・提供：事業所の状況、業務、職場環境の把握・分析とその結果の提供、職務設計の提案・調整、職場の構造化・職務の学習段階の設計等、他の事業所の事例提供等、

○OJT： JC 支援やリワーク支援等の職リハサービス、課題分析に基づく現場での支援技法の直接的提示、提供等

これらの事業主支援を職リハセンターでは、事業

主相談（来所・出張による事業主相談）、会社見学会・説明会（訓練生への職業情報の提供と事業所と訓練生の出会いの機会）、HW 主催の面接会（南関東地区（東京・埼玉・神奈川・千葉）で定期的開催されるHW 主催の合同面接会やミニ面接会への参加）求職情報のホームページでの公開とリクエスト、職場実習、

受入れ準備講座（障害者雇用の促進を計画している事業主を対象に開催する講座）、能力開発セミナー（既に事業所に勤務している在職中の障害者への研修）

## 4 事業主支援実施の具体的事例

職リハセンターでは、これらの事業主支援をニーズに応じて組み合わせ、効果的な事業主支援を個々の企業に対し行っている。以下にその事例を示す。

（1）企業グループで雇用促進を計画的に推進した A 社  
大手電機メーカー A 社とそのグループ企業全体の雇用促進を図るため、A 社の啓発活動と障害者との出会いの場を「会社説明会」等の場を設定し提供した。

（2）管理職の啓発から幅広い求人を実現した B 社  
社全体として職務を創出し障害者雇用を実現を目指す B 社に対し、数十名の各部の管理職の方々に対し、職リハセンター見学・障害者雇用の配慮等について、研修を行った。

（3）視覚障害者の職場適応を促進する D 社  
事務職として複数の視覚障害者を雇用している D 社に対し、スキルレベルの異なる障害者に一定のスキルの確立を図るため、能力開発セミナーを実施した。

## 5 考察

事業主の支援機関へのニーズは、各社の求人に適した障害者の育成、紹介、様々な障害者の現状と配慮方法等の情報・提案、障害者の労働市場等についての情報提供と対策、障害者雇用を実現するための労働条件・職務創出、障害者の職場適応・キャリアアップの促進が挙げられる。

これらのニーズに対応できる職リハサービス機関は未だ数少ない現状にある。これらを満たす事業主支援を対人援助の一つと位置づけ専門的サージスの中で十分に提供できるよう取り組むことが求められている。